

障害者の逃げ遅れを〇にするには

2年 菊田波音

課題設定の理由

福祉体験で学習をしたときに災害時の避難はどのようにしているのか疑問に思ったから。

仮説

近所に体の不自由な方がいる地域は特に常日頃からコミュニケーションを取ることが必要と考える。

調査方法

市役所の方へ質問(日頃からできる対策について)

インターネット

調べて分かったこと

東日本大震災での障害者死者率

身体	精神	知的
3.9%	3.1%	1.5%

主な



溺死

震災当時困ったこと

防災無線などの音声が届かない。

⇒ 今、起きていることを正確に伝える。

(例) 手話, 紙に書き, 見せるなど,

・周囲の状況が把握できない。

⇒ 危険な場所と安全な場所を教える。

(例) ゆっくり話す, 一緒に行動するなど

日頃からできる対策

ヘルプカード

援助を必要としている人が、周囲の人に気付いてもらうために携帯するもの。



表

[本人の情報]		男	女
氏名	年	月	日
住所			
性別			

裏

他にも...

- 医療の情報
 - 緊急連絡先
 - 配慮が必要なこと
 - 苦手なこと
 - 禁止してほしいこと
 - 対処法
- 災害発生
自由記述
見方への
メッセージ
- 全9種類
(気仙沼市)

考察

東日本大震災での死因の多くが溺死なのは、逃げ遅れの可能性が高い。また、避難を諦めてしまった人も少なくないと思う。

まとめ

障害の有無にかかわらず、コミュニケーションを取ることは日常生活だけでなく、防災でも大事な役割になると思った。

発信

これから身の回りにある配慮マークなどを調べて、多くの方が理解できるようにまとめたポスターを作成し発信していきたい。